

## 最強の投資手法「スーパーボリンジャー」「スパンモデル」によるシンプルトレード

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4時間足、1時間足分析を掲載します。

分析は、全て、先週末8月26日の日足終値時点(NY時間午後5時)での判断です。尚、内容は、私の有料情報サービス「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)から一部抜粋(毎日お届けしている中で、月曜日の朝一番の配信分のみ)です。毎日の配信をご希望の方は、ぜひ「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)をご覧ください。(動画配信を毎日行っております。無料お試し期間もあります。)

<<<主要7通貨相場週足、日足、4時間足、1時間足分析>>>

「週足」はポジショントレードの大局観把握、

「日足」はスイングトレードの大局観把握、

「4時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、

「1時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。

尚、特に、1時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて判断することをお勧めします。

例えば、ポジショントレードであれば、主に日足での売買判断、

スイングトレードであれば、主に4時間足での売買判断、

ゆったりデイトレードであれば、主に1時間足での売買判断、

デイトレードであれば、主に5分足での売買判断となります。

そして、トレード戦略の解説は、YouTubeで配信している「実践トレード解説」をご参考にしてください。

「マーフィーFX」YouTubeチャンネルはこちらです。

<https://www.youtube.com/channel/UCTOj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々な相場解説を無料動画で視聴出来ます。

### ■ドル円

<<週足>>

緩やかな上昇トレンド局面と調整反落局面が併存中。

終値が+1σラインを下回って以降、調整反落局面入りしたが、最初の押しの目途であったセンターラインまで下落した後に反転上昇している。

今後、終値がセンターラインをキープするかぎり、緩やかな上昇トレンド局面と読む一方で、終値が+2σラインを超えないかぎり、調整反落局面継続のシナリオも残る。

#### <<日足>>

目先、本格上昇トレンド局面入りか、レンジ局面入りするかの瀬戸際に位置。

尚、本格上昇トレンド発生の際の「相場の上放れ」の条件は、

- 1) 運行スパンがローソク足から上放れる、
- 2) 終値が+2σラインの上方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 運行スパンがローソク足のみならず、+2σラインをブレイクすること、等々。

一方、終値が+1σラインを下回ると、レンジ局面入りする可能性が高まる。

尚、売りシグナルの逆行パターンの買いサイン点灯中であるが、最終ターゲットである+2σラインに接近した後に反落。

#### <<4時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

尚、買いシグナルの順行パターンの買いサイン点灯中。

#### <<1時間足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、

終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

尚、直近にて、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯。

#### ■ユーロドル

### <<週足>>

本格下落トレンド局面。

終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

### <<日足>>

本格下落トレンド局面。

終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

### <<4時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、  
等々。

売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサイン点灯中。

### <<1時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

尚、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが点灯中だが、最終ターゲットである $-2\sigma$ ラインには到達済み。

## ■豪ドル/ドル

### <<週足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを再度上回ると+2σラインを目指す本格的な調整反騰局面入りすると判断する。

### <<日足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

尚、目先、買いシグナルの順行パターンの買いサイン点灯中。

### <<4時間足>>

本格的な調整反落局面。

終値がセンターラインを下回っており、-2σラインを目指す本格的な調整反落局面となっている。遅行スパンが陰転しないかぎり、-1σラインから-2σラインにかけは、一旦は押し目買いチャンスと読む。

### <<1時間足>>

本格下落トレンド局面。

終値と-1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が-1σラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

尚、終値が-2σラインを下回る「走る相場」となっているだけに、「リバーサルパターン」の発生には注意しておきたい。

「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、(1)1本前の高値をブレイクすること、(2)終値が-2σラインを上回ること、の両方を満たすこと。

尚、売りシグナルの逆行パターンの買いサイン点灯中。

## ■ポンドドル

### <<週足>>

緩やかな下落トレンド局面と調整反騰局面が併存中。

終値が $-1\sigma$ ラインを上回って以降、調整反騰局面入りしたが、最初の戻りの目途であったセンターラインに届かず反落している。

今後、終値がセンターラインを超えないかぎり緩やかな下落トレンド局面と読む一方で、終値が $-2\sigma$ ラインを下回らないかぎり、調整反騰局面継続のシナリオも残る。

### <<日足>>

本格下落トレンド局面。

終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

尚、「リバーサルパターン」が発生しており、反転上昇しやすくなっている。

「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、(1)1本前の高値をブレイクすること、(2)終値が $-2\sigma$ ラインを上回ること、の両方を満たすこと。

### <<4時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の順行パターンの売りサイン点灯中。

<<1時間足>>

本格下落トレンド局面。

終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

尚、終値が $-2\sigma$ ラインを下回る「走る相場」となっているだけに、「リバーサルパターン」の発生には注意しておきたい。

「リバーサルパターン」の条件は、反騰の場合、(1)1本前の高値をブレイクすること、(2)終値が $-2\sigma$ ラインを上回ること、の両方を満たすこと。

## ■ユーロ円

<<週足>>

上昇バイアスを伴ったレンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクspansion」と言います)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

<<日足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

遅行スパンが陰転しているため、下落バイアスを伴っていると読む。

尚、売りシグナル、及び、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサイン点灯中だが、逆行パターンの買いサイン点灯時の最終ターゲットである $+2\sigma$ ラインにほぼ到達済み。

<<4時間足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

尚、終値が+2σラインを上回る「走る相場」となっているだけに、「リバーサルパターン」の発生には注意しておきたい。

「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、(1)1本前の安値をブレイクすること、(2)終値が+2σラインを下回ること、の両方を満たすこと。

また、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサイン点灯中。

<<1時間足>>

調整反落局面。

終値が+1σラインを下回って以降、調整反落局面入りしている。

センターラインは最初の押しの目途となるが、遅行スパンが陰転しないかぎり、

センターラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンと読む。

また、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、終値が+2σラインを上回るまでは、+1σライン～+2σラインにかけてのゾーンは戻り売りチャンスとも読む。

また、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサイン点灯中。

## ■豪ドル円

<<週足>>

調整反落局面と緩やかな上昇トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを下回るまでは、緩やかな上昇トレンド局面が続き、終値が+2σラインを上回るまでは、調整反落局面シナリオが残る。

<<日足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。  
遅行スパンの同期性にも注目したい場面。

遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが関連しながら動くことを指す。

尚、買いシグナルの逆行パターンの売りサイン点灯中。

#### <<4 時間足>>

本格的な調整反落局面。

終値がセンターラインを下回っており、 $-2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反落局面となっている。遅行スパンが陰転しないかぎり、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけては、一旦は押し目買いチャンスと読む。

#### <<1 時間足>>

本格下落トレンド局面。

終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

### ■ポンド円

#### <<週足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。  
カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言います)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。



### <<日足>>

下落バイアスを伴ったレンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

遅行スパンが陰転しているため、下落バイアスを伴っていると読む。

尚、売りシグナルの逆行パターンの買いサイン点灯中。

### <<4時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

### <<1時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言います)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

尚、売りシグナルの逆行パターンの買いサイン点灯中。

★尚、スーパーボリンジャーは、价格的要素を重視し、より短期の判断、スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断となる。また、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断となる。

以上です。

◆「マーフィーFX」YouTube チャンネル登録のご案内。

<https://www.youtube.com/channel/UCTOj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々なマーフィー流相場分析、解説が動画で無料視聴出来ます。

◆マーフィー流 FX「実践トレードコーチング専用」ライン@のご案内。

以下より登録できます。

<https://www.span-model.com/line/>

◆「スパンオートトレーダー(SAT)」のご案内。

「スパンオートトレーダー(SAT)」とは、「裁量トレード」と「自動売買(EA)」の良いとこ取りをした、とても便利なトレードツールです。

「スパンオートトレーダー」の詳細、及び、お申込みページはこちらです。

<https://www.xfine.info/satrader/>

◆「スパンオートシグナル」のご案内。

スパンモデルを有効に使いこなす為のきわめて強力なツールです。

スパンオートシグナルのご紹介、および、ご購入用ページはこちらです。

<https://www.xfine.info/sauto/>

以上です。